

# 荒木高子展

—心の深淵に迫る—



荒木高子は、1921年に兵庫県西宮市に生まれました。華道末生流宗家の家元であった父の死後、荒木は1936年に、15歳で家元代行として家業に従事しました。

1950年頃からガラス・オブジェを制作し、1952年には須田剋太に師事し、油絵を学びました。1956年、大阪に白鳳画廊を開設し、1960年の閉廊まで主に関西の前衛美術を紹介し、荒木自身も石膏やスチールなどを用いたオブジェを制作しました。1961年に渡米し、ニューヨーク・アート・スチューデントズ・リーグで彫刻を学び、フランス、スペインに滞在した後、1962年に帰国しました。1963年には、陶芸をはじめするために、西宮市の自宅に窯を築き、丹波立杭の丸八窯、京都市工芸指導所で学びました。荒木は、黒陶のオブジェや、球体にシルクスクリーンで転写した作品などを発表し、そのユニークな造形が注目されました。

荒木の作品が現代美術界にとどまらず、陶芸界で広く認知されるようになったのは、1979年第5回日本陶芸展に出品した「聖書シリーズ・砂の聖書、燃えつきた聖書、黄金の聖書」で最優秀作品賞・秩父宮賜杯を受賞したのがきっかけです。同年には、イタリアのファエンツァ国際陶芸展でも第2席に入賞しています。以後、荒木は聖書シリーズを継続して制作し、海外でも高い評価を受けました。1990年には、兵庫県三田市にアトリエを開設。1995年の阪神淡路大震災で、西宮市の自宅が被害を受けてからは、三田市のアトリエ横にアメリカ製のトレーラーハウスを設置して移り住み、2004年に亡くなるまで、同地で制作を続けました。

このように荒木は、兵庫県にゆかりの深い作家であり、聖書を題材にやきものという素材を通じて、人間の存在に関する根源的なテーマに迫った作家であるといえます。

今回の展覧会は、荒木高子の没後初めて開催される回顧展です。生涯にわたる陶芸作品を展示することで、荒木が陶芸界に残した足跡をたどります。

## 【展示構成】

- (1) 初期作品 (1960年代後半～1978年)
- (2) 「聖書」シリーズ1 (1979年～1980年代)
- (3) 「聖書」シリーズ2 (1979年～1980年代)
- (4) 「聖書」シリーズ3 (1990年代～2000年代)

- 1 会 期 平成 23 年 12 月 10 日（土）～平成 23 年 2 月 26 日（日）（67 日間）
- 2 開館時間 10 時～18 時  
※入館は閉館時間の 30 分前まで
- 3 休 館 日 月曜日、12 月 31 日、1 月 1 日  
ただし 1 月 2 日（月）、1 月 9 日（月・祝）は開館し、1 月 10 日（火）は閉館）
- 4 観 覧 料 一般 600（500）円、大学生 500（400）円、高校生 300（200）円、  
中小生以下無料  
※（ ）内は前売り及び 20 名以上の団体割引料金  
※65 歳以上の方は半額  
※障害のある方およびその介護者は半額
- 5 出 展 数 約 70 件
- 6 主 催 兵庫陶芸美術館、神戸新聞社
- 7 後 援 兵庫県、兵庫県教育委員会、西宮市、西宮市教育委員会、三田市、  
三田市教育委員会、篠山市、篠山市教育委員会、丹波市、丹波市教育委員会、  
（公財）兵庫県芸術文化協会
- 8 助 成 芸術文化振興基金
- 9 協 力 丹波立杭陶磁器協同組合
- 10 同時開催 「印銘のある丹波焼－直作・花遊・一此などー」  
平成 23 年 12 月 18 日（日）まで  
「丹波の茶道具－水指の変遷－」  
平成 23 年 12 月 23 日（金・祝）～平成 24 年 3 月 18 日（日）
- 11 関連イベント  
(1)記念講演会「荒木高子の人と芸術」
  - ① 日 時：平成 24 年 1 月 28 日（土）
  - ② 定 員：110 名
  - ③ 講 師：乾由明（兵庫陶芸美術館館長）  
(2)ギャラリートーク（学芸員による展示解説）（事前申込不要、展覧会観覧券必要）
  - ① 日 時 平成 23 年 12 月 17 日（土）、平成 24 年 1 月 7 日（土）、1 月 21 日（土）、  
2 月 4 日（土）、2 月 18 日（土）

---

問い合わせ先 兵庫陶芸美術館

〒669-2135 兵庫県篠山市今田町上立杭4

電話：079-597-3961 FAX：079-597-3967

E-mail: togei@pref.hyogo.lg.jp

【企画内容に関すること】 学芸課 担当学芸員 岡田

【取材・写真提供に関すること】 企画事業課 秋澤

# 特別展「荒木高子展」 2011年12月10日(土)～2012年2月26日(日)

## 広報用貸出写真・読者プレゼント招待券のご案内

企画・事業課宛 FAX (079) 597-3967

広報用写真データ(Win.jpg.)及び読者プレゼント招待券のご希望をメールで承っております。  
 次欄に必要事項を記入のうえ、兵庫陶芸美術館企画・事業課までご送信ください。

①ご入用の写真No.	
②ご入用の招待券の枚数 (5組10名を基本とさせていただきます。)	
③貴社名	
④部署・ご担当者名	
⑤ご住所	
⑥電話・FAX	
⑦掲載メディア	
⑧掲載予定日	

※写真は本展覧会の広報用としての使用に限らせていただきます。

※作品写真をご使用の際は併記のキャプションをお願いいたします。

※読者プレゼントの際には、写真を掲載し本展をご紹介いただきますよう、お願いいたします。

またお手数ですが、招待券プレゼントの受付・発送などは貴編集部にてお願いいたします。

※なお、ご掲載紙・誌を下記までご送付いただきますよう、お願いいたします。

	写真1・無題 1965年 西宮市大谷記念美術館		写真2・プリンテッド・ボールズ 1971年 西宮市大谷記念美術館
	写真3・無精卵 1973年頃 和歌山県立近代美術館		写真4・砂の聖書 1983年 和歌山県立近代美術館
	写真5・点字の聖書 1985年 東京オペラシティ アートギャラリー 撮影：斉藤 新		写真6・石の聖書 1991年 個人蔵 撮影：加藤成文
	写真7・Pocket Bible 2000年 個人蔵 撮影：高嶋清俊		

・「作品名」、「制作年」、「所蔵者」、「撮影者」(一部)の順に記載。

・「作品名」、「制作年」、「所蔵者」、「撮影者」を掲載してください。

・撮影者のクレジットは、右記のように必ず表記して下さい。→ 撮影：〇〇〇〇